

# 教育

## 好きに勝るものない

魚の豊富な知識と親しみやすさ。人柄で人気のさかなクンが、自らの生い立ちをつづった初の自叙伝「さかなクンの『魚』」(講談社)を刊行した。東京海洋大客員准教授として教壇にも立つ「魚の伝道師」の半生は、大好きな魚と共に歩んできた喜びに満ちている。

「ハイハイをしている頃から絵を描くのが大好きでした。今でも夢中に絵を描いている時が一番楽しいです」と話す。初めて出合った海の生き物は、小学2年の時、友達と一緒に描いたタコの絵

「この生き物は一体何だった。その落書きが人生を大きく変えた。寝ても覚めても頭の中はタコ一色に。やがて、タコを見に訪れた水族館でウマツラハギのひょうきんな顔立ちに一目ぼれした。魚への好奇心が一気に膨らんだ。「休みのたびに釣りに出掛け、自宅には50種のお魚を飼う水槽が並んでいました」

魚に夢中になるあまり、成績は下降。「家庭訪問では毎年、先生から成績のことで注意されていた、と後に母親から聞きま

## さかなクン 初の自叙伝



「これからも、たくさんのお魚の魅力を伝えていきたい」と語るさかなクン=東京都文京区のホテル

## 母の応援 支えだった

一貫していた。

教師が「今後、困るのはお子さんですよ」と言えば、母親は「成績が優秀な子がいれば、そ

「だったら、ロボットになっちゃいますよ」と応じた。「お魚が好きならそこそんやりなさい」と、いつもおおらかに応援して支えてくれました」

中学、高校進学後も魚への興

味は深手 学中は水 魚のシヨ に関係す 「でも水 れず失敗 ップでは のがつま れない。 た」

education

## 子どものいま 未来



キーパーソン21の運営についてスタッフと話し合う朝山あつこさん=川崎市の事務所

# 生きる原動力発見を

わくわくして動きださずにはられない。そんな原動力のよくなものが誰にだってあるはずだ。それを見つけたら、子どもたちは自分で動きだす。川崎市のNPO法人「キーパーソン21」の代表、朝山あつこさん(55)は、その原動力を「わくわくエンジン」と呼び、子ども一人一人から引き出す活動を続けている。

### ▼自分を知る

例えばアニメが好きなら、アニメがわくわくエンジンなのだろうか。朝山さんによれば、そうではない。野球に夢中な子どもがいれば、大人はつい「野球選手になれば」と言ってしまう。しかし、プロ選手にまでなれる人は多くない。中学高校ぐらいになると「おれ、プロは無理だし」と気持ち、挫折したような気持ちになる。

キーパーソン21のプログラムを一緒に受けた中学生の中で、3人が野球に打ち込んでいたケースがあった。なぜ野球が好きなのか。突っ込んで聞くと、A君は作戦を立てること、B君はチームに自分が役立っていること、C君は素振りや筋トレで日々、成長を感じることができた。わくわく

## 朝山あつこさん

(キーパーソン21代表)

## 「一人一人輝く」を目指す



コミュニケーションの始まり。紙にニックネームを書いて自己紹介するキーパーソン21提供

エンジンは三者三様だった。それなら3人とも打ち込む対象は野球に限らない。「このわくわくエンジンを自分で見つけているか、親や先生が理解しているかが、とても重要です」。キーパーソンの活動は、子どもたちがまず自身自身を知ること、次に社会を

知ることを目指す。そのためプログラムは多様だ。対象は野球に限らない。「このわくわくエンジンを自分で見つけているか、親や先生が理解しているかが、とても重要です」。キーパーソンの活動は、子どもたちがまず自身自身を知ること、次に社会を

門突破を目指すコミュニケーションゲーム…。わくわくエンジンを見つけたい子は劇的に変わると朝山さんは言う。最近も小6から不登校だった男子高校生が、個別プログラムを受けた後、急に登校し始めた。いずれかのプログラムを受けた子は3万5千人を超えた。

### ▼荒れる学校

朝山さんは男の子3人の母親。18年前、中2だった長男の学校が荒れた。生徒が暴れ、廊下に牛乳をまき、トイレを壊す。ひどく無気力になる子もいた。「暴れる子も無気力な子も退屈そうに見えた。何に向かって生きていくか分からなくなっているように感じました」と朝山さん。目標は親や(共同通信編集委員・佐々木央

キーパーソン21は生活保護世帯の中学生を対象に無料の学習会を開いている。中3で母親に連れて来られたトシ君(仮名)は6時半から2時間の教室なのに、終了直前に来て5分間だけ勉強して帰るような状態だった。ある日、わくわくエンジンのプログラムを受けたので、朝山あつこさんが感想を聞くと「自分に感動した」。彼のわくわくエンジンは「幸せな家庭を築くこと」だった。そのためにはお金を稼がなくなくてはならない。彼は「どうせ働くなら好きなことをしたい。モノ作りが好きなので建築科のある学校に行き資格を取りたい」と話した。学ぶ目的が明確になって見違えるように猛勉強を始め、全日制の工業高校に合格した。勉強が中だるみになった時期もあった。朝山さんが「トシ君、このようにしたの、やる気な

## 見違えるように猛勉強

資格取得を目指して高校も休まずに通っている。学習会に来る中3の少女は外国籍の母と2人暮らし。「働きたい母を助けたいから中学を出たら働く」と話していたが、プログラムを受け「親のいない子のための施設をつくる」という夢を見つけた。母の母国でホームレスの子と接した体験があったからだ。朝山さんは「夢のためにも進学を諦めない方がいい。助成制度を利用すれば進学できる」と勧め、少女は夢の実現に向かって歩みだした。